

# イノシシの生態と対策

イノシシは十二支(干支)のひとつで私たちにとってなじみのある動物ですが、意外とその生態は知られていません。被害対策の第一歩は、まずイノシシのことを正確に知り、ほ場周辺の生活痕跡(フィールドサイン)を見逃さないことです。

## イノシシの生活痕跡(フィールドサイン)



## 生態

**食性** 雑食性で人間が食べるようなものはすべて食べます。農作物のほか、昆虫やミミズ、ネズミなどの小動物もエサとしています。草や木も食べます。

**行動** 本来は昼間に行動する動物ですが、人の影響が少ない夜間も活発に行動します。落葉広葉樹林や茂み、耕作放棄地や竹林など食料になるものが豊富にあり、身を潜められる場所を好みます。記憶力がよく、侵入に成功した仲間の行動を真似するなど、高い学習能力を持ちます。その一方で警戒心が強く、臆病。通りなれたけもの道を往復して移動します。ジャンプ力があり、垂直に1.2mの高さを飛び越えるだけでなく、20cmの隙間もくぐり抜けます。鼻で押し上げる力によって70kgの石を簡単に動かすことができます。

**繁殖** 交尾期は年に1回で12~2月頃、出産期は4~6月頃。満2歳で初産を迎え、平均4・5頭を産みます。寿命はオスが6歳、メスが10歳程度です。

## 特徴

- “猪突猛進”はパニックになって逆上した時の姿。本来警戒心が強く、臆病で注意深く、あまり人前に姿を現しません。反面、いったん慣れると大胆不敵にもなります。
- 鼻は敏感で、周囲の臭いや感触をさぐる際に使われる一方、地面を掘ることもできます。
- 体毛は太く、剛毛で、電気を通しにくくなっています。

## 被害状況

最大の被害は根菜類と乳熟期以降の水稻です。水稻では穂の食害のほかに、踏み荒らしとヌタウチによる倒伏もあります。

### イノシシの驚くべき身体能力



## 対策① 近づけない

イノシシの被害対策は、地域ぐるみの取り組みがとても大切です。その第一歩となるのがイノシシを近づけない環境をつくること。まず、「行きたい・近づきたい」と思わせる要因を1つでも消して、イノシシにとって魅力のない集落にすることが先決です。

取り組みが早ければ早いほど効果が高く、併せて、既設の防護柵の効果を高めることもできます。

### 餌付けになることをしない

- 生ゴミや野菜クズを田畑や山際に捨てないようにしましょう。捨ててある場合は、すぐに回収するか、見えないように隠します。
- 収穫の終わった野菜や果樹等の残渣を畑に残さないようにしましょう。
- 収穫しない果樹や竹林を放置しない。不要な樹木は伐採します。
- お墓のお供えは持ち帰ります。



### 近づかせない

- 休耕地や耕作放棄地は格好の寝床やヌタ場になったり、田畑への侵入口になるので、草刈りなど適正な管理を行います。和牛などを放牧することにより山と田畑の間に人と野生動物との緩衝地帯を設け、近づきにくくする方法もあります。

※耕作放棄地等の問題は、集落全員の理解と協力で解決しましょう。

- 山際の草木の伐採や枝払いをして見通しを良くし、出没しにくく、逃げにくい環境をつくりまします。
- 田畑をエサ場だと覚えさせないためにも、生育期や収穫期だけでなく、年中追い払います。

- 女性・高齢者でも、出没当初から「追い払い」に参加しないと、逃げない習慣がついてしまうので、イノシシを見たらみんなで追い払います。
- 警戒心を持たせるため、散歩や田畑の見回りはできるだけ山際の道を通り、「けもの道」を見つけたら歩いてみます。

### イノシシの隠れ場所をなくしましょう!



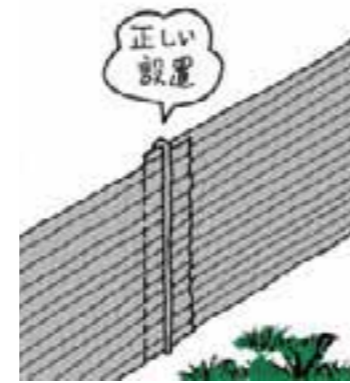


## 対策② 侵入させない

### 防護柵の設置がとにかく重要！

イノシシは縄張り意識が弱いので、一度でも侵入された田畑には次々と何頭かのイノシシが現れて被害が拡大します。トタン、ネット、金網を使った柵やワイヤー式電気柵などの防護柵を設置するのが効果的です。高い身体能力を持っていますので、十分な強度をもった柵にしましょう。

- トタン柵：持ち上げたり、跳び越されないようにすき間をなくし、高さを十分に確保して設置しましょう。
- ネット：くぐり抜けられたり、食い破られたりしますので、足が絡むように、柵の上部から地面に斜めに張るのが効果的です。
- 金網柵：接地部分や角が弱点となるため、固定をしっかりに行いましょう。また、シカ対策との複合設備の場合は、シカへの対応を基準としましょう。
- 電気柵：地形にあわせて設置し、草が接触することで電圧が低下したり、ショートしたりしないように管理しましょう。シカ・サル対策の複合施設の場合は、サルへの対応を基準としましょう。また、柵の高さはシカに対応したものにしておく、もしシカが出た場合に安心です。



ちょっとしたズボラが大きな被害に！

### 電気柵をただの柵にしないために

電気柵は過信のもとです。電線に雑草が接触していると漏電状態になってしまうため、下草の手入れを怠れば「ただの柵」と変わらなくなることもあります。しかし、適切にシートを設置することで漏電を防ぐことができます。

#### ポイント

1mのシートでは山側を20cm里側を80cmとしイノシシの出てくる方に柵を近づけます。

※電圧は6,000V～10,000Vを保つように、こまめに管理しましょう。



### 電気柵設置のポイント

イノシシに対してショックを与えることができる電気柵ですが、いくつかの約束事を守ることでその効果が発揮されます。突破を防ぐのにまず基本となるのは電線を張る高さです。

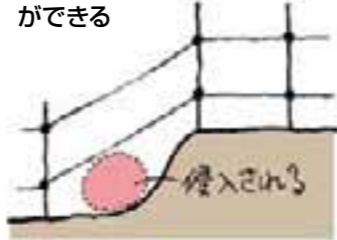
#### イノシシ用電気柵の見本

電線は2段に張る。上の段は親イノシシがちょっと上をみるときの鼻の位置。高さは40cm。下の段は20cm。もぐりこもうとするときの鼻の高さで、ウリ坊とも兼用。

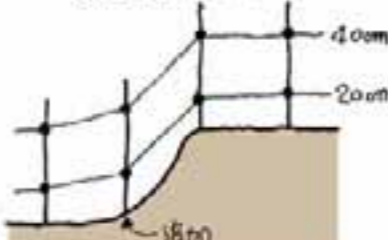


感電する部位は鼻と腹、2箇所だけ。そのほかは剛毛で覆われ、ほとんど感電しない。支柱を倒されないように、電気柵は支柱の外側に設置します。

よくある失敗①  
高低差のあるところにすきまができる



支柱を追加する



あくまで土壌深20cmを保持

よくある失敗②  
舗装道路のすぐわきに設置



柵は舗装道路から50cm以上離す



前足から土へ電気が通る

電気柵に近づかないで！

電源の入った電気柵に近づくのは危険です。除草作業やメンテナンスの際は電源をきるようにしましょう。また周囲の人がわかりやすい見やすい文字、位置、間隔で危険表示をしましょう。

